様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価1-1】専任教員の配置状況

・学科等の	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法士科	人	人	人	人	人	6人	6人	人	49人	17人	

【自己評価1-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価1-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門 基礎・専門）	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当コ マ数	担当教員	
				氏名	職名 （専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基盤	歴史学	15	甘利弘樹	兼任
		哲学	15	黒川勲	兼任
	人間と生活	教育学	15	山崎清男	兼任
		統計学	15	馬場清	兼任
		物理学	15	安達佳輝	兼任
		英語	15	御手洗靖	兼任
		保健体育	15	松田史朗	兼任
	社会の理解	人間関係論	15	佐藤圭子	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能 および心身の発達	解剖学Ⅰ	15	三浦真弘	兼任
		解剖学Ⅱ	15	三浦真弘	兼任
		解剖学Ⅲ	15	大野智之	専任
		解剖学Ⅳ	15	大野智之	専任
		解剖学演習	15	大野智之	専任
		生理学Ⅰ	15	定金香里、他	兼任・専任
		生理学Ⅱ	15	定金香里、他	兼任・専任
		生理学演習	15	武田知樹、他	専任・兼任
		基礎運動学Ⅰ	15	分藤英樹	専任
		基礎運動学Ⅱ	15	分藤英樹	専任
		運動機能構造学	15	三浦真弘	兼任
		人間発達学	15	田中洋	兼任
		臨床心理学	15	古賀精二	兼任
		病理学概論	15	泥谷直樹、他	兼任
		臨床医学Ⅰ	8	李康生	兼任
		臨床医学Ⅱ	8	桑原宏	兼任
		臨床医学Ⅲ	8	武田知樹、他	専任

	疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	臨床医学Ⅳ	8	瀬尾健一、他	兼任・専任
		内科学Ⅰ	15	丹羽裕子	兼任
		内科学Ⅱ	15	丹羽裕子	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	池邉修二	兼任
		整形外科学Ⅱ	15	池邉修二	兼任
		神経内科学	15	井野邉純一、他	兼任
		精神医学	15	宇都宮和則	兼任
		小児科学	15	内山伸一、他	兼任
		老年医学	8	深田健治	兼任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	社会福祉学	8	四ツ谷年晴	兼任
		リハビリテーション概論	8	武居光雄	兼任
		地域リハビリテーション学	8	佐藤圭子	専任
		地域リハビリテーション演習	8	佐藤圭子	専任
専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	15	武田知樹	専任
		理学療法評価学総論	15	佐藤圭子	専任
		医療統計学	15	武田知樹	専任
		卒業研究	30	武田知樹、他	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	武田知樹、他	専任・兼任
	理学療法評価学	骨関節評価学Ⅰ	15	分藤英樹	専任
		骨関節評価学Ⅱ	15	大野智之	専任
		筋機能評価学Ⅰ	15	岡部陽介	専任
		筋機能評価学Ⅱ	15	岡部陽介	専任
		神経評価学Ⅰ	15	大嶋崇	専任
		神経評価学Ⅱ	15	大嶋崇	専任
		呼吸循環器評価学	15	分藤英樹	専任
		動作分析学	15	大野智之	専任
		疾患別評価学演習Ⅰ	8	武田知樹、他	専任
		疾患別評価学演習Ⅱ	8	武田知樹、他	専任
		運動療法学	15	武田知樹、他	専任
		運動療法学実習	15	武田知樹、他	専任
		骨関節理学療法学	15	佐藤圭子	専任
		骨関節理学療法学実習	15	佐藤圭子	専任
		神経理学療法学	15	武田知樹	専任
		神経理学療法学実習	15	武田知樹	専任
		小児発達理学療法学	15	那須賢一、他	兼任
		循環代謝理学療法学	15	竹村仁	兼任
		呼吸理学療法学	15	大嶋崇	専任
		スポーツ理学療法学	15	高司博美、他	兼任
		物理療法学	15	分藤英樹	専任

	理学療法治療学	物理療法学演習	15	分藤英樹	専任
		日常生活活動学	15	岡部陽介	専任
		日常生活活動学実習	15	岡部陽介	専任
		義肢学	15	岡部陽介	専任
		装具学	15	岡部陽介	専任
		高次脳機能障害学	8	大嶋崇	専任
		脊髄損傷理学療法学	8	大野智之	専任
		摂食嚥下障害学	8	平岡賢	兼任
		喀痰吸引法	8	大嶋崇	専任
		予防理学療法学	8	武田知樹、他	専任・兼任
		救急救命法	8	北島純子、他	兼任
		徒手理学療法学	8	志賀辰三	兼任
	地域理学療法学	地域理学療法学	15	池田孝臣、他	兼任
		生活環境論	15	鈴木義弘、他	兼任
		障がい者スポーツ論	15	池部純政	兼任
	臨床実習	見学実習	23	武田知樹、他	専任
		訪問通所リハ実習	23	武田知樹、他	専任
		評価実習Ⅰ	45	武田知樹、他	専任
		評価実習Ⅱ	45	武田知樹、他	専任
		総合実習Ⅰ	180	武田知樹、他	専任
		総合実習Ⅱ	180	武田知樹、他	専任

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
〇	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療機関におけるリハビリテーションの見学(見学実習)	1年前期	理学療法概論	1年前期
		理学療法評価学総論	1年前期
訪問リハビリテーション、通所リハビテーションの見学(訪問通所リハ実習)	1年後期	日常生活活動学	1年前期
		人間関係論	1年前期
		日常生活活動学実習	1年後期
理学療法評価の実践 (評価実習Ⅰ)	2年前期	疾患別評価学演習Ⅰ	2年前期
		骨関節評価学Ⅰ	1年後期
		骨関節評価学Ⅱ	2年前期

		筋機能評価学Ⅰ	1年後期
		筋機能評価学Ⅱ	2年前期
		神経評価学Ⅰ	1年後期
		神経評価学Ⅱ	2年前期
		呼吸循環評価学	1年後期
理学療法評価の実践 (評価実習Ⅱ)	2年後期	疾患別評価学演習Ⅱ	2年後期
		動作分析学	2年後期
		義肢学	2年後期
		装具学	2年後期
理学療法評価から治療計画の立案を行い、対象者に対する理学療法やその効果判定の実践 (総合実習Ⅰ・Ⅱ)	3年前期	運動療法学	2年前期
		運動療法学実習	2年前期
		物理療法学	1年後期
		物理療法学演習	2年前期
		骨関節理学療法学	2年後期
		骨関節理学療法学実習	2年後期
		神経理学療法学	2年後期
		神経理学療法学実習	2年後期
		小児発達理学療法学	2年後期
		循環代謝理学療法学	2年後期
		呼吸理学療法学	2年後期
		スポーツ理学療法学	2年後期
		徒手理学療法学	3年前期
		摂食嚥下障害学	3年前期

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。 1	1

【自己評価3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	職業実践専門課程（文科省）学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	藤岡晋三
組織の開催頻度	１年に一度
組織の取り組み内容	・ 内部委員による自己点検評価
	・ 外部委員による第三者評価と提言
	・ 授業評価の分析、職員間での共有
	・ 職員研修会の企画・運営
自己点検・評価結果の公表	https://www.hiramatsu.ac.jp/reha/disclosure

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
〇	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務担当者会議
	委員構成等	各科（理学、作業、言語）の教務主任

仕組み	改善の仕組みの実際	改善内容については、定例会議（校長、教育部長、各学科長）および職員会議を通して全職員へ周知を図り、改善に努めている。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己評価および学校関係者による第三者評価結果については、職員会議を経て各学科の取り組みとして活かしている。また、その内容は教育計画・結果報告（年次）として学校法人事務局へ報告している。